

NEC田んぼづくりプロジェクト（上太田）レポート 特別号
「NEC田んぼ作りプロジェクト」×「クボタeプロジェクト」
両社ともに企業と連携した初めての協働です。

1 / 17 ~ 18 : 草刈り・耕起・水路開削

2013年 1月22日

農業機械国内最大手の(株)クボタ
圃場整備が行われていない谷津田の再生に初チャレンジ！

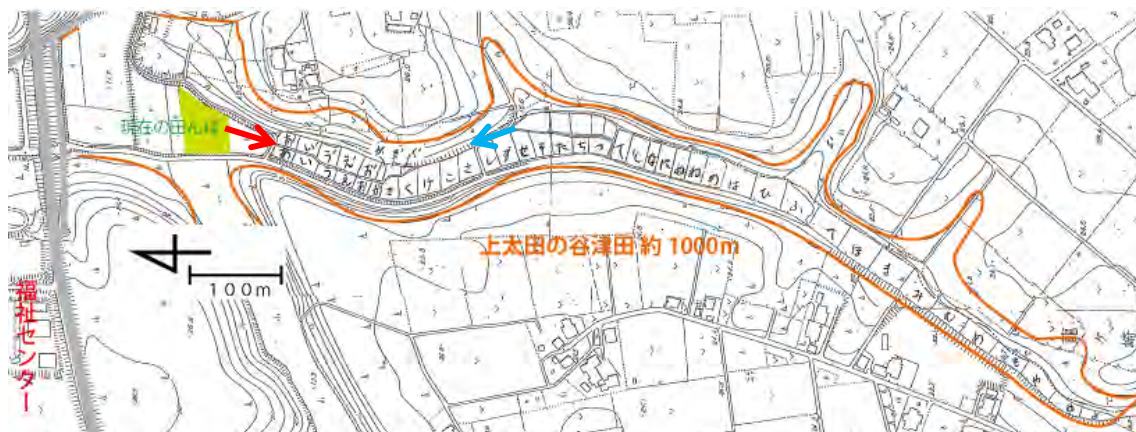


「クボタeプロジェクト」

「食料・水・環境」の社会的課題解決に向けて、クボタグループが推進する社会貢献活動です。その中心ともいえる「耕作放棄地再生支援」活動は、全国で40万ヘクタールにも及ぶという耕作放棄地の解消をめざして2008年からスタートしました。クボタの農業機械とオペレーターを派遣して、農地の復元整備や作物栽培作業の一部を支援しています。

ご存じの方も多いかもしれませんが、上太田の谷津田 1 本は、全長約 1000m（谷筋全体）の約 22,000 m²を対象とし、全体が耕作放棄された状態となっています。今回は、荒廃が激しく機械の力が必要な約 1,700 m²の農地を対象に、農業機械メーカーの(株)クボタの社会貢献活動「クボタ e プロジェクト」の協力を得て、1 月 17, 18 日の 2 日間にわたって、作業を行いました。

<谷津田全体の様子>



今回、(株)クボタと協働で復田活動を行った場所です。

北側から南側を眺めた様子



昨年、達人の皆さんがきれいに草を刈った
区画「あ」～「う」

※2012 達人田んぼを含む

<耕起作業と水路開削>

南側から北側を眺めた様子



駐車場からの達人散策路途中にある
区画「こ」～「さ」

<草刈り作業と耕起作業>

雑木（ヤナギ等）の撤去は、アサザ基金スタッフと、当日ご参加いただいたNEC達人さんで行いました。

1月17日（木）

作業初日、水路づくりに登場した農機が、パワークローラトラクタ「KL40ZH」40馬力。「リターンディッチャ」という作業機を装着して、あっという間に溝が掘れました。



長年埋もれていた水路がよみがえりました。

雪解け水が、心地よい水音と共に流れるようになり、幾分水量が増えた気がします。

水路には、早速カワセミが様子を見に来たので、作業中の皆さんを驚かせました。

続いて、耕起作業を行った農機が、パワークローラトラクタ「KL48ZH」48馬力。
「パワクロサスペンション」という三角のキャタピラで、やわらかい地盤にも、車輪がはまることなく耕起を行うことが出来ました。



耕起された田んぼには、早速セグロセキレイや、ヤマガラがえさを探しにやってきていました。

草刈り作業を、パワークローラトラクタ「KB 23 X」 23馬力に、「フレールモア」という作業機を装着して行いました。刈り取った草が、細かく破碎されて地に還ります。



また、枯れて倒れかかっている柳の木を、トラクタで牽引しながら安全に伐採しました。



1月18日（金）

作業2日目、昨日耕起した区画「あ」に残る、古い水路や穴をトラクタのロータリを逆回転させることで埋めました。また、竹林側にも水路を掘ってもらいました。この水路が田んぼの排水路になると共に、ヘイケボタルが生息している竹林下の湿地の乾燥を防ぎます。



およそ1反の広さが耕起されました。植物の根は破碎されたままなので、今後根を除根する作業が待っています。

続いて、昨日草刈りを行った区画「こ」～「さ」についても、耕起作業を行いました。
こちら側が、新しい達人田んぼになる予定です。



作業終了後、ロータリには、たくさんの根が絡まってしまい、達人の皆さんも一緒に鎌や株切りを使って、きれいに清掃しました。2日間の作業お疲れ様でした。
ご協力いただいた(株)クボタの皆さん、ありがとうございました。



これから、春の田植えに向けて、除根や畦づくりの作業が本格化します！皆さんのご参加をお待ちしています。

認定NPO法人アサザ基金 小堀進